



意訳 日本のクロンダイク



へるふね perupnei





# 目次



「日本のクロンダイク」白仁 武 雑誌太陽 明治32年10月

北海道枝幸地方は明治30年代ゴールドラッシュに沸いた地である。内務官僚で北海道庁書記官を務めた白仁武は、明治32年10月、雑誌太陽に枝幸砂金地に関する論文「日本のクロンダイク」を発表した。本論は枝幸砂金地を世に知らしめた最初の論文である。本書は本論を意識紹介するものである。

意識 日本のクロンダイク

## 1 北海道砂金の沿革

旧記によれば、今から7百年前、筑前の船員が渡島の知内で砂金を発見し、時の将軍源頼家に献上、頼家の命により、荒木大学という者が、1千人の家臣を率いて渡道稼業したのが、北海道砂金業の始まりという。

以来、各地で砂金が発見されたが、収支が合わず、あるいは取尽くし、現在まで引き続き稼業するものは少ない。

元来砂金と言うものは、河岸河畔の沖積層中にあり、産地として伝えられた所でも、巨額の産出があるところはない。そしてその産地は次のとおりである。

知内川、利別川、夕張川、ドナクベツ川、シビチャリ川、新冠川、ポロベツ川、元浦川、苫前以北の海岸、十勝海岸、サホロ川。

上記の内、知内、利別、ドナクベツ、天塩十勝の海岸は、今も多少の産金があるが、事業としての価値は小さい。

## 2 枝幸の砂金発見

この様な中、突然枝幸で砂金が発見され、その盛況はたちまち千里を走り、無敵の探検者と万余の採取者によって満たされた。産出地域は枝幸宗谷両郡に亘り、1月～8月の採取量は120貫である。日本国において金本位制が定められた中、国家の慶事であることは言うまでもない。

私は、今年8月公用で同地を訪問し、見聞するところ少なからざるものがあり、ここにその一端を紹介し、起業者の参考に資する。

砂金というものは、多くは河底、河畔の沖積層中に産し、地質学上では古火成岩の分解によって生じる。知内川の千軒岳、利別川の狩場岳、日高十勝等であり、全道各地で本岩層の存するところは、いずれも多少の砂金がある。

北見地方では元文年間、徳川幕府が金座後藤正三郎を遣わして砂金を探索したが、得るところがなく、以来同地方では産金の声を聞かなかった。

明治25年、頓別川奥で古火成岩が発見され、その一部は分水嶺を越えて天塩川に連坦し、日高山脈の大岩層に次ぐものとして公表された。しかも本岩層は現在盛んに採取されている、トンベツ、ホロベツ上流にも存するので、これらの砂金は古火成岩の分解により生じたものと想像される。

しかし、いわゆる大金脈は発見されず、探検者も採取者も先を争って金脈の探検に熱中している。金脈は発見されないが、この8ヶ月間の採取高は120貫を越え、1貫を4

千円とすれば48万円となり、もし大金脈を発見できれば、その額はどれ程になるか想像もできない。

同地方で砂金が発見された由来を聞くと、同地は元来好漁場であり、明治29年には171統の建網で4万3千石を漁獲した。しかし、翌30年の漁獲高は2分の1になり、更に31年には5分の1に、32年は33分の1に減じた。

ここで、枝幸住民の取るべき道は、逃亡か餓死か、しかし、逃亡する路銀すらない彼らは、各自死処を探し、大澤の浜、深山の奥、川となく海となく草根木皮の産するところ、掘りに掘り、探りに探り、そして突然驚きの声を上げた。何事か、それは燦爛たる黄金である。河底において河畔において、巨樹を倒せば金塊は累々とし、樹根の間に雑然たる等、枝幸の山河は砂金をもって充たされた。あたかも北米カリフォルニアのごとく、日本のクロンダイクは発見されたのである。

### 3 砂金採取区域

枝幸郡は北見国の北端、宗谷郡の東南にあつて、海岸線20余里、頓別、枝幸、歌登、礼文の4村があり、枝幸はその中央にある。枝幸には戸長役場が置かれ、枝幸湾は安全な良港で汽船を泊する。郡内河川の主なものは頓別川、幌別川、徳志別川で、その他小流、支流は枚挙にいとまがない。そしてこれらの河川は概ね産金があり、現に採掘中の区域は延長100里を越え、頓別、歌登両区域だけでも88里である。両区域の箇所及び延長は次のとおりである。

頓別地区 ウソタンナイ8里、ペーチャン9里、トーウンベツ14里

歌登地区 ホロベツ13里、パンケー7里、パンケー8里、フーレップ8里、トプシュベツ12里、ウエンナイ及びトイマキ9里

各区域における鉱区及び許可者は次のとおり。

歌登村 パンケナイ：堀川泰宗外1名、トプシュベツ支流：鹿野惣次郎外1名、シビウタレ：田中宗之助、ホロベツ：田中宗之助、ホロベツ：松本忠次郎、ホロベツ支流：長村秀外4名、オイチャヌンベツ：菅原太蔵、ホロベツ支流：長村秀外4名、トプシュベツ支流：松本忠次郎、トプシュベツ：板橋敬哉外1名、ホロベツ支流：長村秀、ホロベツ：田中宗之助

頓別村 ムワツカル：金澤為次郎外2名、トウンベツ支流：中川一介外1名、ウソタン：廣谷順吉外1名、トウンベツ支流：堀川康宗、トウンベツ幹流：渡邊米四郎、トウンベツ支流：鹿野惣次郎外1名、トウンベツ支流：松本忠次郎、トウンベツ支流：平出喜三郎、トウンベツ：實澤起作、トウンベツ支流：平出喜三郎、ウエンナイ：鹿野惣次郎

礼文村 フーレップ：石川要三、モオレタンラップ：岩田正蔵、オチシュベツ：町野清平、トイナイ：長村秀、オチシュベツ：遠藤卯三郎、フーレップ：堀川泰宗、オチシュベツ：遠藤卯三郎

枝幸村 モウツ：實澤起作、ウエンナイ：實澤起作、ホロベツ：伊勢谷清吉

以上は、枝幸郡内の採取区域及び許可者であるが、隣の宗谷にも許可者があり、国境を越えた天塩も同様である。この様に砂金熱が急激なため、枝幸郡のみならず北見から天塩に至る山河は、いずれも採取者が入り込んでいるが、最も採取者が多いのは頓別の

パーチャン、歌登のパンケナイである。

ウソタンナイ、パーチャンは廣谷順吉の許可地で、パンケナイは堀川泰宗の許可地である。しかし許可者自ら採取するのではなく、無数の採取者は何れも一定の金額を払い、随意随所で採取するのである。そして許可者は事務所を設け、請願巡査を置いて採取者を警護し、密採者の出入りを警戒している。

#### 4 採取地の現状

砂金の鉱区は、枝幸でも30以上に及ぶが、盛況なのはパーチャン、パンケナイ、ウソタンナイである。

パーチャンの模様 パーチャンは常時4～5千人が入り込んでいるが、これはほとんどが密採者で、採った砂金は全て自分のものになるため、採取者は日に日に増え、盛況が甚だしい。採取区域は3里に亘り、パーチャン川の全部である。

枝幸町からは、頓別川を遡れば15里、幌別原野を横断すれば11里の所にある。元来北見地方は、山と山との間に開けた地であり、小流を15里も遡れば深山幽谷で、最近まで人跡未踏の地であった。

砂金採取のため道が開かれたが、群山起伏、溪谷連坦、山路溪畔、岩を攀じり、蕪の絡まる難道である。元より、泊まるに家無く、食うに食無く、買うに物なき場所のため、全ての採取者は10日、20日の食料及び炊具を背負い、辛うじて到達するのである。

最も、枝幸から1里は海岸に沿い、そこから幌別原野を通る4里強は、茫々たる平原のため格別の困難があるが、上幌別原野から道が急となり、熊笹は等身大で、倒れた樹木をくぐり、断崖をよじり、溪流を渡り、泥炭地を横切り、血に飢えた虻蚊の襲撃に耐え、幾多の困難を偲ばざるを得ない。しかし、黄金の希望と利益はこれらに打ち勝ち、パーチャン河畔に設けられた小屋は5百に上り、一大集落を形成している。

この地の採取方法は、4人以上1組となって、1人は鉄棒で石を起こし、1人はカッチャで砂礫をバケツに投げ、1人はネコの上で砂礫を篩い、さらに揺り板に移して精製するのである。この様にして、1回に得る砂金は10粒程に止まるが、1日の収穫が多い時は10匁、少なくとも1匁を下らず、たまには10～20匁の金塊を手にもすることもある。しかし砂金は、必ず含金層が溶解して流下するものなので、金脈を探り当てようと、樹根、山腹、河身、河畔の別なく掘り進み、トンネルを掘るものさえ少なくない。この様にして、今年5月以降の産金量は30貫に近く、今年秋までに50貫に達するという。

パンケナイの模様 パンケナイはホロベツ川の上流で、枝幸から7里、幌別原野を横断して赴く。本鉱区は延長7里で、堀川某が昨年11月から採取に着手した。事務所を設け、2名の請願巡査が常駐し、採取人から1ヶ月砂金1匁5分を徴収し、随意採取させている。料金は前納で、現在6～7百人の採取者がいる。採取量はパーチャンに及ば

ないが、採取者数の割に成績は良好である。

今日までに採取した総額は明らかでないが、本鉱区は金塊が多く、7月中は21匁、14匁、13匁、10匁の大塊を得た者がいる。採取量は10貫から15貫に及ぶが、採取方法はパーチャンと大差なく、密採者が少ないので規律が整っている。

ウソタンナイの模様 ウソタンナイは廣谷某の許可地で、延長8里に亘り、1時は8百余名の採取者があった。廣谷事務所は10名の請願巡查、15名の事務員を置き、採取人から1ヶ月3匁の採取料を前納させる。採取者はその負担に耐えかね、数回の談判を遂げ、ようやく1匁5分に減じさせたが、採取者に対する交情冷たく評判はよろしくない。

パーチャン鉱区が発見され、月千円もの収入が得られ、密採のため自由自在に採取できるとの噂は、たちまちウソタンナイの採取者を吸収し、今では僅かに4～50人の採取者がいるのみである。

しかし本鉱区は採取最が多く、密採者の警護も厳しいので、採掘額も随一で当初からの総額は40貫以上に達したという。

以上3鉱区の外、トプシュベツ、フーレップ等著名の産地は、前記と大差がない。

市街の景況 枝幸の砂金は、瀕死の枝幸市民を蘇生させた。枝幸市街は未曾有の盛況を呈し、1軒の空き家も無く、宿屋は砂金関係者で連日満室となる。

人が多く、物価が高いことは全道の比ではない。ちなみに物価の例を示す。

米1升30銭、味噌100匁9銭、焼酎38銭、大阪酒4合38銭、福神漬30銭、牛肉缶詰32銭、草履3銭、蝋燭3銭、塵紙5銭、半紙7銭、散髪料25銭、風呂2銭、駄馬3円、乗馬35銭、その他呉服太物類から日用品に至るまで、ほとんど札幌の倍である。

しかし、砂金の相場は1匁4円内外で、ほとんどは同地商人によって買い取られる。これは商人が物品を高値で売りさばき、利益を相殺するためである。

また、旅客を見ると、1月1人、2月4人、3月39人、4月54人、5月121人、6月520人と著しい増加である。同町の宿は、木賃宿を除いて4軒あるが、前記の旅客は1軒の宿泊数であり、他も加えれば、6月中の宿泊者は1,450人に達する。その他安宿に泊まる者、宿泊せず直ちに砂金山に向かう者を合算すれば、同月中の旅客は数万になる事は確実である。

また、貸座敷の様子を聞くと、1月51人40円、2月65人60円、3月109人120円、4月312人350円、5月1,340人1,642円、6月2,455人4,380円。これは概算に過ぎないが、飲食店で飲食するのに5円を要し、娼妓一夜の収益は砂金5分～1匁、5円10円の高額紙幣は続々流行し、補助貨幣は著しく欠乏し、婦人の妓と言わず娼と言わず2個3個の指輪をし、枝幸から砂金山に通じる小路の旅客は300人を下らず。沿道2軒の茶店の売上は、少なくとも30円を下らない。

農業荒廃、山林乱伐、堤防崩壊等、憂うべき事は多いが、当局も黙認するしかなく、道



庁警部も官吏も巡検するが、山に居る密採者は、官吏が来ればたちまち離散し、去れば元に戻り、ほとんど無法状態である。この他各事務所の請願巡查、事務員等があり、乱暴な事は減ってはいるが、延長100余里の深山幽谷、到底厳密の取締りはできない。

## 5 雑記

砂金の質及び量 砂金の質は山金よりも優れるが、枝幸の砂金は他の砂金に比べ純良と言われる。枝幸砂金を分析すると、ほとんど純金に近い良質のものと言う。

また、当初からの採取量は、採取者の過半数は密採者で、正確に知る事はできないが、郵便局の調べによれば、今年1月から8月までに郵便小包で他に送り出されたものは、51貫521匁に達する。

この他採集人と商人が持ち出したものを概算すれば、少なくとも120貫以上の産出があったと思われる。採取者の中には、1日15匁を採取する者がいる一方、数日間で1匁も採れない者もある。従って1回5百円、千円の為替を送付する者もあれば、数ヶ月労働して一金も余さざる者もあり、万余の採取者は皆幸運の者ではない。

砂金買い入れ方法 前記の様に多額の産出があるにも関わらず、地元相場は1匁3円80銭～4円12銭の間で、同地方は北海道の中でも交通不便で、諸物価は札幌の比ではなく、どの様な物品でも多くの運賃雑用を加え、歩合の利益がある。採取者は物品に飢えており、採取した金は現物交換するが、商人は物品の価格を3～4割高くするため、砂金の価格も1～2割安くなる道理である。

枝幸に至る路程 北見枝幸と言っても、北海道のどこにあるかさえ知らない者も多い。これ等のために、横浜から至る路程金額を記す。

横浜から小樽に至る 汽船744里、上等17円、中等12円、下等6円

小樽から枝幸に至る 汽船204里、上等8円、下等3円20銭

函館から小樽に至る 汽船218里、上等7円、中等5円、下等2円50銭

小樽から稚内に至る 汽船153里、上等6円、下等2円

稚内から枝幸に至る 陸路31里30町余

採取手順 砂金採取方法は、記する程のものではないが、その労働は終日水流に立って作業するので、脚気等の水腫病に罹ることが多い。故に強健の者でもあらかじめ予防を講ずる必要がある。

資本家が採取事業を営むには、砂鉱採取法に基づき札幌鉱山監督署へ願書を提出する。採取着手方法は詳細に記し難く、起業者は実際に見て工夫すべきである。

白金の産出 枝幸地方の産金は砂金のみならず白金も産出する。現に巡視の際、某旅

店の主人が自分の鉱区で採取したと言って見せてくれたが、誠に白金の純粋なるものである。しかし、砂金は先を争って買い入れるが、白金は鑑別が困難なのと、購買者皆無のため採取に従事する者はいない。起業者が詳細探検し、どれ程産出するか確かめれば、一大発見の導火線になるかもしれない。



---

意識 日本のクロンダイク

---

著 へるふね

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---